



化学物質のリスク評価システム *Risk Manager*

リスクマネジメントサブシステム

定常時、作業時、事故時評価のそれぞれのサブシステムから推定されたリスク評価結果について、重要と思われるケースを比較しながら、その設定条件下でのリスク判定をユーザが行うための支援をします。さらに判定結果に対して今後取り得るリスク管理手法情報を提供しながら、さらなる評価が必要かどうかのユーザ判断を支援します。以下の主に3つの機能があります。

1. リスク結果表示・比較機能
2. リスク評価・判定支援機能
(新規評価推奨機能)
3. リスク管理手法検討機能

順位	リスク管理手法	リスク管理手法の適用可否	リスク管理手法の適用理由
1	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
2	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
3	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
4	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
5	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
6	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
7	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。
8	作業時作業場環境改善	適用可能	作業時作業場環境改善がリスク低減に有効である。

リスク管理手法の表示例

【システムでの評価の流れ】

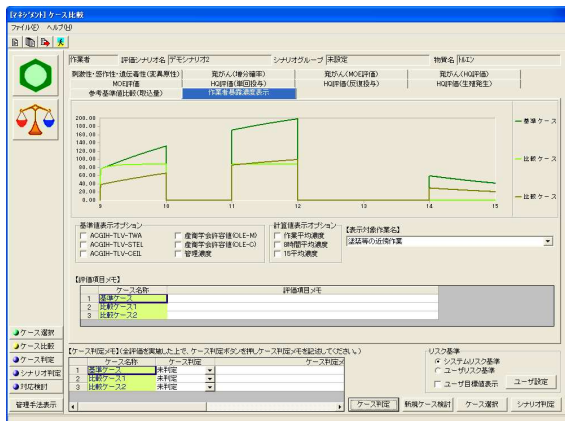
ユーザは定常時、作業時、事故時のいずれかのサブシステムを選択し、そこで評価した結果のうち、最大3つのケースを持ち込み、算出された評価結果を同一グラフ上に表示・比較します。



その結果をもとにユーザは評価した条件におけるリスクを判定し、更なる検討が必要か否かを判断します。またシステムからは一般的なリスク管理手法検討の情報が提供され、その情報は次のリスク評価の際にも重要な情報として記録されます。

【結果の出力例】

作業場暴露濃度評価結果の比較例



MOE (Margin of Exposure) 評価結果の比較例

